

JISA Digital Innovation Challenge (JDIC) について

JISA 人材委員会



【目的】

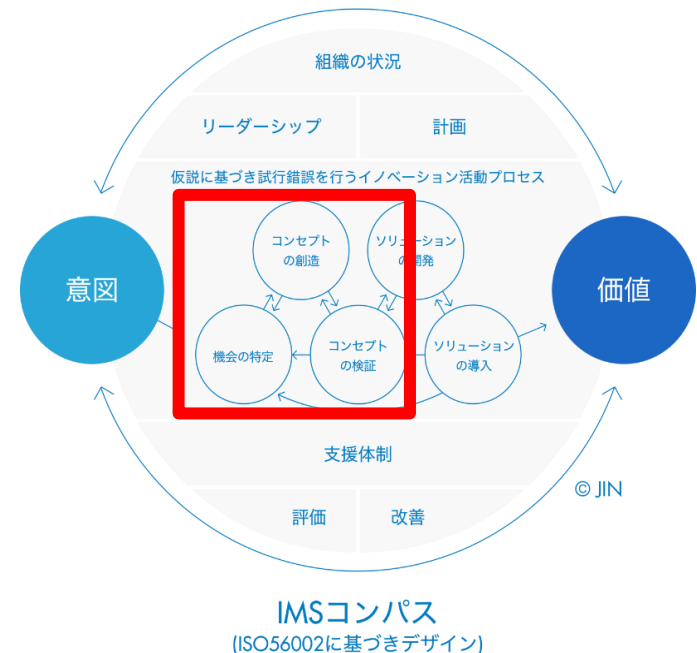
本イベントは、自らが抱える職場や顧客の課題や社会課題について、解決のためのソリューション提案やサービス化にチャレンジしたいJISA会員企業の個人やチームへの実践の場を提供することを目的として開催します。

【募集内容】

参加者/チームは、自らが抱える職場や顧客の課題や社会課題について、その解決案やソリューション案を事業計画書にして提出してもらいます。

本チャレンジでは、ISO56002のイノベーション活動プロセスにおける、「機会の特定」「コンセプトの創造」「コンセプトの検証」「ソリューションの開発」を中心に自主的に取り組んでいただく事を想定をしています。計画書に含まれる内容は、「機会の特定」「コンセプトの創造」「コンセプトの検証」を繰り返したビジネスアイディア、もしくはPoCなど「ソリューションの開発」の一部まで取り組んだソリューション事例でフォーマットは自由です。

また、参加者/チームの所属会社は**ISO56002イノベーションマネジメントシステムを参考に応募者への支援**（心理的安全性や就労時間への配慮、場合によってはPoC環境の提供など）を行っていただきます。（JISA イノベーションマネジメントシステム入門セミナーへの参加要）



【応募資格】

自ら課題を持ちデジタル技術を用いて解決したいと考えている個人/チーム（JISA会員企業の従業員）
1社2チームまでの応募に限ります。

-注意点-

- ・参加にあたり、**所属企業からの承認が必要となります。**
- ・異なる会員企業間でチームを組んでの応募を可としますが、その場合、**主幹事企業を選定すること**とし、JISAとのやり取りは主に主幹事企業のメンバと実施することとします。
- ・本チャレンジでは講師やメンターによる伴走型支援は行いません。但し、10月の中間報告時にメンターによるアドバイスを行います。
- ・優秀賞（最大3チーム）を受賞したチームは報告会をJISA主催で開催しますので、そこで活動報告をお願いします。
- ・**事業化に関してJISAは関与いたしません。**所属企業において継続可否を判断してください。

【実施スケジュール】

日程	内容
6月5日 16時～17時	JDIC募集説明会の開催
6月5日～7月5日	JDIC参加 応募期間
7月16日 15時～17時 (調整中)	参加者セミナーの開催 JISA イノベーションマネジメントシステム入門セミナー
10月22日 午後	中間報告 有識者（NTCプロジェクトメンタ）によるアドバイス 1チーム（15分発表）
12月18日 19日 20日 (調整中)	最終発表1週前に発表資料提出 最終審査 1チーム（15分発表）

【目的】

新事業やイノベーションへの挑戦には失敗がつきものですが、アイデアと熱意のある社員が成功する確率は低く、彼らへの組織的な支援が不可欠です。また、失敗を許容しチャレンジを励ます組織文化をはじめ経営戦略やトップのコミットメントなど体系的なマネジメントシステムが必要です。本セミナーは、既存事業を行いながら、新たな価値を生み出す探索も同時に行うことができるISO56002イノベーションマネジメントシステムを紹介します。

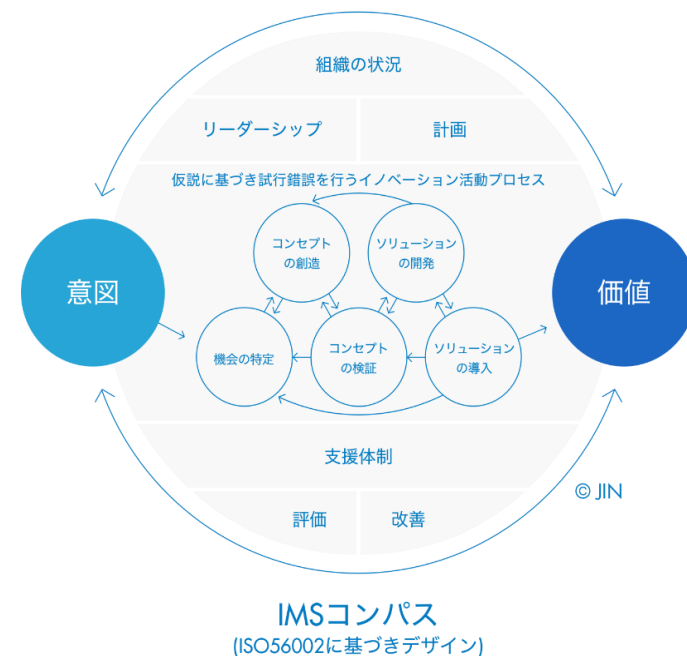
【対象者】

- ・ NTCプロジェクトおよびJDIC応募企業の経営者および関係者

【講師】

- ・ JIN（ジャパンイノベーションネットワーク）

【時期】 2024年7月中旬



【表彰について】

提出された提案資料について、優秀賞（最大3件程度）の選定をJDIC選定委員会において厳正・公正に行います。優秀賞を受賞されたチームには、所属企業（主幹事企業）に活動費用として賞金（税込）を提供します。

【賞金（予定）】

- | | |
|--------------|----------|
| ・優秀賞（最大3件程度） | 賞金 100万円 |
| ・両利きの経営賞 | 賞金 50万円 |

【JDIC選定委員会メンバ】

松田 信之	(一社)情報サービス産業協会
石曾根 信	(株)S R A
古宮 浩行	S C S K(株)
平田 貞代	芝浦工業大学大学院
松倉 明広	(株)T O K A I コミュニケーションズ
戸部 雅之	三井情報(株)
吉澤 均	(株)リンクレア

【著作権について】

本事業において開発されたアイデアやプログラム等の知的財産権については原則として参加者各個人、並びに、チームメンバに帰属するものとします。また、組織や個人の協力の上で得られたデータ（ユーザアンケートデータや環境データなど）については、原則として主体となる取得者が都度取得目的とデータ共有範囲を定めることとします。なお、JISAは、本事業に関する広報を目的とした利用（新聞、ホームページ、パンフレットなど）においてのみ、活動内容や発表内容についての利用を無償で認められるものとします。

【募集するテーマについて】

外部への公開がされていないテーマ（収益事業になっていないもの、または、所属企業における事業化がなされていないもの）を募集します。なお、所属企業において、ビジネスコンテストなどを実施した際のテーマで、事業化にはいたっていないものなども応募可能です。

また、JDICと並行して開催しているJISA版NTCプロジェクトでの検討内容についても、受講者メンバー間で合意が取れれば応募可能です。

【参加応募方法（7月上旬）】

規定の応募フォームでご応募ください。

3つの実践的デジタル人材育成研修の位置づけ(参考)



ステージ	学ぶ (learn & try)		実践する (challenge)
名称	ITアスリート研修	NTCプロジェクト	JISA Digital Innovation Challenge (JDIC)
対象	課題解決のための事業創出にチャレンジしたいが、手法が分からないJISA会員社員		解決したい課題を持ち、解決のための事業化にチャレンジしたいJISA会員社員チーム
概要	自社やお客様の課題を探索し解決策(価値)の提案を行う体験的学習。講義(知識と演習)と自主学習を組み合わせ8時間/週×5週(40時間)	事業化に必要なビジネススキル研修と、群馬県の実フィールドでの課題探索プログラムを行うで5ヵ月で約400時間	応募者は期間中、現場観察等によりアイデア、顧客課題、ソリューションの検証を繰返し事業計画書にまとめる。優秀賞には賞金をJISAから提供 <u>(応募には所属企業からの承認が必要)</u>
JISAの支援	講師による講義と自主学習におけるフォローなど	ビジネススキル研修、テクニカルスキル研修の実施。課題探索プログラムでのメンタリングなど	中間審査において有識者(NTCプロジェクトメンタ)からのアドバイスを実施
スケジュール	年2回程度	6月～10月	6月～7月 説明会 & 募集 10月 中間審査 12月 最終審査
募集定員	約30名×2回程度	15名	10組程度

3つの実践的デジタル人材育成研修の位置づけ(参考)



(JISA)
デジタルイノベーションチャレンジ
(JDIIC (2024年))

NTC
プロジェクト
(2022年～)

IT アスリート
研修
(2023年～)

デジタル人材分類

Top ITアスリート
先端 ITエキスパート
育成目標：500名～1000名程度

ITアスリート
育成目標：全デジタル人材の
5%～10%

デジタル人材

ITエンジニア

Top ITアスリート

常に未来の創造にチャレンジし、デジタル化による社会や事業の価値創造をリードする人材

高度なデジタル知識や経験とリーダーシップ、アントレプレナーシップを兼ね備えた人材

習得すべきスキル/能力：

アート思考 業務知識（事業開発ができるレベル） 創造性 リーダーシップ
アントレプレナーシップ

先端 ITエキスパート

デジタル技術の先端開発や高度利活用を専門的に推進する人材

習得すべきスキル/能力：

CAMBRICに代表されるデジタル化高度技術
業務知識（製品、サービスの知識）

ITアスリート

社会や顧客の課題を発見の上、デジタル化による課題解決・価値創造を支援・推進する人材

自己研鑽により先端・高度デジタル技術を習得する自律性を有し、その技術を活用しての課題解決提案力・推進力を有する人材

習得すべきスキル/能力：

デザイン思考 自律性 コミュニケーション能力（語学）
高度デジタル技術 業務知識（業務分析・課題の発見ができるレベル）